

令和5年度 学校自己評価システムシート

日高市立武蔵台小中学校

目指す学校像	地域に愛され、未来に向かって、ともに学びをつくる学校
重点目標	義務教育学校の基礎をつくる

年度目標		学校自己評価				年度評価 (令和6年1月9日現在)		学校運営協議会での評価		「学校運営協議会での評価」を受けて	
評価項目	具体的方策	評価指標	A+Bの割合		目標の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策 〔・次年度へ継続する課題 ・改善していくための方向性〕	学校運営協議会での評価		「学校運営協議会での評価」を受けて	
			職員	保護者				実施日 令和6年2月14日	学校運営協議会の委員からの意見・要望・評価等	「次年度の課題と改善策」に係る変更点や追加事項等 (※変更点や追加事項等がない場合は空欄)	
組織運営の充実 (小中一貫の視点)	○目指す15歳像の具現化 ○積極的な生徒指導の推進	1 学校は、目指す15歳像「たくましく未来を切り拓き、一歩上を目指す台っ子」の育成に努め、9年間の発達を見据えた教育活動(授業、学校行事、部活動等)を進めている。	100.0%	92.4%	・日頃の授業や清掃活動、委員会活動等において、子供たちの良さを認め、9年間の発達や成長を見守ることができた。 ・大運動会や校内音楽会などの学校行事や、後期課程の教員による前期課程(4～6年生の一部)への授業を通じて、子供たちの主体性や学力の向上に努めることができた。	A	・学校教育目標や目指す学校像をもとに、9年間の教育課程(学校の教育計画)を見直し、特色ある教育課程を編成する。 ・校内組織を見直し、義務教育学校ならではの教育活動を検討、実施する。 ・児童生徒会が主体となり、学校の課題を自分事として解決していくようにする。 ・ふるさと科の計画を見直し、地域学習を積極的に推進する。	・武蔵台地区の目指す15歳像「たくましく未来を切り拓き、一歩上を目指す台っ子」をスローガンとして位置づけ、実現していくため、具体的な表現で伝えていく必要がある。 ・9年間を見通した教育活動は本校の大きな魅力となっている。前期課程の一部教科担任制も推し進めていきたい。 ・教職員向けLGBTQの学習会なども行ってほしい。 ・児童生徒が主体的に学校づくりに関わる機会を増やしてほしい。	・ふるさと科をさらに充実させていきたい。 ・性教育を充実させてほしい。		
		2 学校は、児童生徒一人一人のよさを認め、伸ばし、社会の中で自分らしく生きることを目指して、体験活動や児童生徒会活動に積極的に取り組んでいる。	95.8%	95.6%	・遠足、宿泊学習、修学旅行などの旅行的な行事や社会科見学などの体験的な行事、5年生からの後期課程との委員会活動を積極的に行うことができた。						
基礎学力の定着	○授業改善 ○個に応じた指導と補充学習	3 学校は、タブレット端末の活用や話し合い活動などを通して、思考を深める授業づくりに努めている。	100.0%	90.5%	・タブレット端末を活用した授業や、少人数での話し合い活動を授業の中に取り入れるなどして学力向上に努めることができた。 ・教師は授業の中で「本時のめあて」を示して分かりやすい授業の展開に努め、また子供たちに考えさせる場面を設定し、子供たちの思考を深める授業を行うよう努めていた。	A	・授業改善のための研修会を実施し、お互いが授業を見合い、批評して教師一人一人の授業力を高める。 ・学力調査の結果などを学校だより等で公開し、学校の取組について周知する。 ・地域の方に学習支援に入っていたいただき、共に子供の学びをつくる。	・武蔵台小中学校としての特色がほしい。 ・タブレット端末の活用は身体への負担があることも理解してもらいたい。 ・学習支援のために地域学校協働活動を推進していく必要がある。 ・タブレットを活用した授業をしていると、児童生徒が自分の学習したいことを選択することができる。一人一人を取り残さないための工夫が必要である。	・学校評価の数値によって、先生方を苦しめないでほしい。改善すべきことは改善していくが、先生方が十分に力を発揮できるようにしてもらいたい。 ・年間を通して授業改善のための校内研修を行ってきたが、保護者にPRできていなかった。		
		4 学校は、学力調査の結果を受けて具体的な学力向上策を検討し、指導にあたっている。	87.5%	82.9%							
保護者や地域との連携 (コミュニティ・スクールの視点)	○学校の情報発信 ○保護者・地域との連携	5 学校は、各種たより・学校ホームページ・メール配信等を通して、学校の情報を積極的に発信している。	100.0%	94.3%	・定期的に学校だより等を発行するとともに、ホームページやメール配信等を通じて情報を迅速に的確に発信することができた。 ・各種アンケート(1・2学期の振り返りアンケート、制服に関するアンケート等)を通じて、義務教育学校の体制づくりを進めることができた。	A	・学校からの通知のペーパーレス化を推進する。 ・制服自由化の開始に伴い、場に応じた服装についての指導を継続する。正装の日に対応することが難しい家庭への支援として制服リサイクルを積極的に活用してもらう。 ・地域学校協働本部と連携し、子供たちと地域の方の交流を促進させる。	・積極的なメール配信が行われており、タイムリーに情報を確認することができる。 ・学校HPのトピックコーナーが保護者、地域の方に認知されていない。 ・ペーパーレス化を推進していただきたい。 ・学校だよりの地域回覧は、学校の取組を知ってもらう機会となっているが、表彰関係の児童生徒の名前がイニシャルになっている点を寂しく思っている方もいる。 ・制服自由化に向けた取組を丁寧に行っていたことが、8の項目の高評価につながっていると思われる。	・今後、高根、高麗など、他の学校との交流も検討していく。 ・学校HPのPRも十分にできていなかった。 ・年間を通して、多数の方がHPを見ていることは確認できている。		
		6 学校は、定期的なアンケート等を通じて保護者や地域の意見を取り入れながら、コミュニティ・スクールとしての基盤を整備するとともに、義務教育学校の体制づくりを進めている。	100.0%	95.0%							
社会性・人間性の育成	○規律ある態度の育成 ○学校行事の充実 ○道徳教育の充実	7 学校は、あいさつ・言葉遣い・きまりを守る等、規律ある態度の育成に努めている。	87.5%	91.8%	・あいさつの励行や学校のきまり、約束事など、日頃から規律ある態度の指導を行ってきた。また、今年度は児童生徒会が中心となって校則の見直しを行った。 ・ツデーウオークへの参加や大運動会、校内音楽会など、感動と達成感のある学校行事を行うことができた。また、台っ子遊びや縦割り清掃などを通じて、6年生のリーダー性を高めるよう努めてきた。	A	・時間を守る、挨拶、清掃をすることなどの規律面を発達段階に応じて指導していく。 ・児童生徒会を中心に、校則等の見直しを進める。 ・大運動会、校内音楽会、全校遠足の内容を見直し、異年齢交流活動を充実させる。 ・台っ子遊び、縦割り清掃を通して、6年生のリーダー性を高め、その集大成としての全校遠足を実施する。 ・1・9年、2・8年など、特定の学年を組み合わせた学習活動やレクなどを実施する。 ・授業を地域に積極的に公開する。	・後期課程の活躍を維持できるような取組を意識して行う必要がある。 ・児童生徒会による校則の見直しは素晴らしい成果だった。 ・異年齢交流のアイデアを児童生徒、保護者に問いかけたこともよかった。 ・あいさつについては、人より先にできるようになるとよい。 ・異年齢交流がよくできていた。 ・前期課程の児童が憧れるような行動を後期課程の生徒がしている。	・7は、唯一保護者の方の数値が高い項目となっている。家庭での声かけも必要である。 ・小中一貫のメリット、デメリットを明確に保護者に発信してもらいたい。 ・6年生を活躍させる場を意図的につくっていくことが必要である。後期課程の児童生徒がよいお手本になる。これは義務教育学校としてのメリットである。 ・来年度は、姉妹クラスを設定するなどの取組をして、異年齢交流を推進していきたい。		
		8 学校は、異年齢交流活動や感動と達成感のある学校行事、教育活動を展開している。	100.0%	93.1%	・道徳の授業を中心に道徳教育の充実に努め、また、人権教育週間を設定し、自他を尊重する気持ちや思いやりの心を育てる教育を行うことができた。						
		9 学校は、自他を大切に心や相手を思いやる心を育て、道徳教育の充実に努めている。	95.8%	88.6%							
安心安全な教育環境	○教育相談体制の充実 ○安心・安全な学校づくりの推進	10 学校は、児童生徒や保護者の声に丁寧に耳を傾け、相談しやすい環境づくりに努めている。	100.0%	86.7%	・日頃から児童生徒や保護者の声に真摯に耳を傾け、相談しやすい雰囲気となるよう努めてきた。 ・横断歩道を渡る時はハンドサインを心掛け、安全に登下校するように指導してきた。また、児童生徒が安全で過ごしやすい校舎内外の整備に努めている。	A	・11月にも個人面談、三者相談などを実施し、全学年とも年2回面談ができるようにする。 ・欠席した児童生徒にはその日のうちに電話連絡をすることを徹底する。 ・プール北側の法面、タイヤ木山を整備する。	・9年間ずっと同じ仲間で過ごすことを窮屈に感じる子がいるかもしれないということを教師、保護者は意識する必要がある。 ・学校HPに、学校へのご意見・ご質問フォームがあることが保護者に知られていない。児童生徒も学校に意見を申し出にくいと感じている。 ・校内の環境整備については、地域を挙げて対応するよう働きかけをしていく。 ・植え込みの剪定に迅速に対応したため、地域の方が喜んでた。 ・児童生徒が地域の清掃活動に積極的に参加できた。	・人間関係はなかなか変わるものではないが、人間関係を広げていくための取組をしていきたい。 ・来年度は、全学年で年間2回の面談を実施していく。 ・草刈りボランティアについては、ぜひご協力をお願いしたい。		
		11 学校は、校舎内外の施設設備などが、安全に使用できるように整備している。(感染防止対策を含む)	95.8%	92.4%							

回答率 218家庭中158件の回答(72.4%)

※達成度：「A」ほぼ達成(評価結果の全てが8割以上)・「B」概ね達成(評価結果の全てが6割以上)・「C」変化の兆し(評価結果の全てが4割以上)・「D」不十分(評価結果の全てが4割未満)